



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第9号
(8月10日～8月23日)

令和元年8月9日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



かん水等、土壌乾燥防止対策の徹底を！
つがるの落果防止剤（ストップール液剤）の散布は8月15～20日頃！！
黒星病の発病葉・発病果の摘み取り処分を!!!

I 概要

まとまった雨が降らず、土壌が乾燥状態にあるので、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。また、1㎡当たり200程度をかん水する。

8月1日現在の果実肥大は、黒石では高温乾燥の影響で、平年よりやや下回っている。その他の地域では、肥大の伸びが鈍化傾向だが、概ね平年並みから平年を上回っている。

摘果は順調に進んだ。しかし、園地や品種によって着果量が多い樹が見られる。今一度着果量を点検し、見直し摘果を徹底する。

黒星病は、秋の二次感染や翌年の感染源を減らすために、発病葉・発病果は見つけ次第摘み取り、処分する。

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月15～16日頃に行う。

つがるの熟度の進みは、ほぼ平年並みと見込まれることから、つがるの落果防止剤（ストップール液剤）の散布は、8月15～20日頃に行う。

高温の日が続くので、果実の日焼けを起こさないよう着色手入れの際は注意する。台風等による強風に備え、風害防止対策に万全を期す。

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行う。

農作業事故を防止するために、農作業安全を心がける。

II りんご生産情報

1 果実肥大、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

8月1日現在の果実肥大は、黒石では高温乾燥の影響で、平年よりやや下回っている。その他の地域では、肥大の伸びが鈍化傾向だが、概ね平年並みから平年を上回っている。

地域	年	つがる	ジョナゴールド	ふじ
黒石 (りんご研究所)	本年	6.7	7.2	5.9
	平年	7.0	6.9	6.1
	前年	7.4	7.6	6.5
	平年比	96	104	97
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本年	7.6	7.2	6.7
	平年	7.2	6.8	6.0
	前年	7.2	6.8	6.0
	平年比	106	106	112
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本年	7.5	7.1	6.8
	平年	7.1	7.1	6.0
	前年	7.4	7.6	6.3
	平年比	106	100	113
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本年	7.3	6.8	6.3
	平年	7.0	6.6	5.9
	前年	7.1	6.8	6.2
	平年比	104	103	107

※各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月5日現在、黒石では平年と比較して、糖度は高く、硬度、ヨード反応及び着色指数は同程度、酸度は低い。総合的に見て、熟度の進みはほぼ平年並みと見込まれる。

つがる(無袋)の熟度の進み (調査月日：黒石8月5日)

地域	年	果重 (g)	着色	硬度 (ポント)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応
黒石 (りんご研究所)	本年	158	0.3	17.8	12.0	0.305	4.9
	平年	173	0.3	18.0	10.3	0.382	5.0
	前年	180	0.3	18.7	9.6	0.320	4.8

注1 着色：指数0～5 大きい数値ほど着色良好

2 ヨード反応：指数0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない

3 平年は参考値で2002年～2018年までの17か年平均。

(3) 作業の進み (8月7日現在)

見直し摘果、支柱入れ、徒長枝整理が行われている。

(4) 病害虫の動き

(8月7日現在 りんご研究所)

斑点落葉病	感染継続中 無防除の県予察圃での新梢葉の発病葉率 (スターキング) (本年: 黒石8月5日2.0%、平年: 黒石8月5日13.5%)
褐斑病	無防除での県予察圃で発生増加中
黒星病	感染停滞中
モモシクイガ	成虫の羽化及び産卵継続中
ナシヒメシクイ	第2世代成虫羽化及び産卵継続中
ハダニ類	卵～成虫が混在。幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	第1世代幼虫主体
キンモンホソガ	第3世代幼虫主体 (第2世代成虫50%羽化日 本年: 黒石7月23日、 平年: 黒石7月28日)
クワコナカイガラムシ	第1世代幼虫主体

2 作業の重点

(1) 乾燥対策

土壌が乾燥状態にあるので、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(2) 見直し摘果

摘果は順調に進んだ。見直し摘果が盛んに行われているが、品種によっては着果量が多い樹が見られ、果実品質や翌年の花芽への影響が懸念されるので、今一度着果量を点検し、見直し摘果を徹底する。

見直しにあたっては、ふじや王林等では4頂芽に1果、つがるやジョナゴールドでは3.5頂芽に1果残すことを目安に、小玉果や果形の悪いもの、黒星病など病害虫被害果を中心に摘果する。なお、摘み取った病害虫被害果は適正に処分する。

(3) 黒星病対策

秋の二次感染や翌年の感染源を減らすために、発病葉・発病果は見つけ次第摘み取り、処分する。

(4) 薬剤散布

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月15～16日頃に行う。

散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布に徹する。また、散布むらを生じないように十分な量を丁寧に散布する。

薬剤の散布にあたっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

無袋栽培では毎回シンクイムシ類の防除剤を使用する。

「8月半ば」の薬剤散布

地域	時期	薬剤名と倍数	散布量 /10a
黒石 弘前 三戸	8月15 ～16日頃	ベフラン液剤25	1,500倍
		又はアリエッティC水和剤	800倍
		又はダイパワー水和剤	1,000倍

①ベフラン液剤25を選択した場合、炭疽病の発生が例年多い園地では、オーソサイド水和剤80 800倍も散布する。

②ベフラン液剤25やアリエッティC水和剤は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(5) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。ポリオキシシンAL水和剤は、薬剤耐性の恐れがあるので、連続散布を避ける。

(6) 炭疽病対策

りんご園周辺のニセアカシアやくるみ類などは伝染源となるので注意する。また、発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋める。

(7) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第、摘み取り7日以上の水漬けなど適切な処置をする。もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

(8) ハダニ類対策

引き続き各地でナミハダニの発生が見られている。

ハダニ類の発生種を確認し、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は、1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。

殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。ただし、ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは、作用点と同じ薬剤なので合わせて年1回以内の使用とする。

サンマイト水和剤とバロックフロアブルは、リンゴハダニだけの、マイトコーネフロアブルは、ナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬 剤 名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	○
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル※	2回以内	○	○
スターマイトフロアブル※	1回	○	○
ダニコングフロアブル※	1回	○	○

○：適用する、×：適用しない

※：ダニサラバ、スターマイト、ダニコングは合わせて年1回の使用とする。

(9) クワコナカイガラムシ対策

発生が多いところでは、8月中旬（成虫の産卵前）にバンド巻きを行う。

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋し被害の軽減を図る。

(10) 恋空の収穫

熟度の進みは平年より早く、黒石では既に収穫適期に入っている果実が見られる。

熟期が揃わないので、地色、着色を見て、2～3回くらいに分けて収穫する。

着色を待ちすぎて、収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるので、果肉

の熟度に合わせて適期に収穫する。

樹上選果作業時に見落としした変形果や病虫害被害果などは山選果で取り除き、良品出荷に努める。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油あがり及早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

(11) 収穫前落果防止剤の使用

つがるなどの早生種の熟度の進みは、ほぼ平年並みと見込まれる。なお、落果防止剤の散布時期は、農協等の指導をもとに適期に散布する。

ア ストッポール液剤

ストッポール液剤 1,000倍（展着剤不要）は、未希ライフときおうでは8月10～15日頃、つがるでは8月15～20日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は350～400ℓとする。

ストッポール液剤は葉から吸収されて効果を出すので、葉に十分かかるようにし、葉摘みは散布4～5日後から始める。なお、散布後7日間は収穫できないので注意する。

極端な早期散布や2回散布、着色促進剤との併用などは、果実の軟化や油あがり及早まるほか、年によって裂果やつる元の腐敗などが多くみられるので、絶対に行わない。

イ ヒオモン水溶剤

ヒオモン水溶剤2,000倍（展着剤不要）は、きおうでは8月10～15日頃、つがるでは8月20～25日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は300～600ℓとし、薬液が葉先から滴り始める程度に、樹全体に散布する。葉摘みは散布当日から始めてもよい。散布後4日間は収穫できないので注意する。

なお、ヒオモン水溶剤を使用した果実の熟度の進みや日持ちは、無処理の果実と同等である。

(12) つがる等の着色手入れ

高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないよう注意する。

早くからの強い葉摘みは、鮮明な色が着かないばかりか食味の低下につながるので、葉摘みはやや着色が進んだ頃から始める。

(13) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいので次表によりカルシウム剤の果面散布を行う。

カルシウム剤は、直接果実に付着するように散布する。なお、樹勢の弱い樹や高温時あるいは干ばつ時の散布は、薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(14) 徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊り

病害虫の発生源を少なくし、樹冠内部に十分日光を入れ、薬液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。

また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので、支柱入れや枝吊りを行う。

ただし、高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないように、徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊りなどは控える。

(15) 風害防止対策

台風等による強風に備え、防風網やわい性台樹の結束などについて点検し、補強や取り替えを行う。また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害、雪害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(16) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症がみられたら、下表により葉面散布用の精製硫酸マグネシウム（グリーントップ又はグリーントップ70）を7～10日おきに単用で散布する。散布は症状の進行が止まるまで1～4回程度行う。

なお、苦土欠乏は、土壌の酸性化が原因なので、土壌診断を行い自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

資材名	マグネシウム 含量	水100ℓ当たり 使用量
グリーントップ	16%	2,000 g
グリーントップ70	23%	1,400 g

3 一般作業

- (1) 腐らん病対策 (2) 草刈り (3) 極早生種の収穫
- (4) 鳥害防止対策

4 今後の作業予定

- (1) 見直し摘果 (2) 「8月末」の薬剤散布 (3) 早生種の収穫
- (4) すず斑病・すず点病対策 (5) 支柱手直し (6) 草刈り
- (7) 風害防止対策

今回の「りんご生産情報」第10号は8月23日(金)発表の予定です。

7月15日～8月15日まで！「見直し摘果」強化運動期間
決め手は、適正着果！

— 樹上選果推進期間（8月下旬～収穫期） —
美味しいりんごを届けよう！

《 農薬使用基準の遵守 》

青森県農薬危害防止運動期間中（5月1日～8月31日）です！

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

